



雰囲気流されてはいけない

校長 吉田伸吾

いよいよ今年度も最後の月になりました。今月は、学習のまとめ、卒業式、修了式と1年間をまとめ、次年度につなげる月です。きちんとまとめ上げ、次にまた大きな花を咲かせるための準備をしまします。

さて、最近見たウェブページに様々な国の人の気質を表した(?)次のようなジョークが載っていました。

○天国とはどんな世界か？ ○地獄とはどんな世界か？

コックが中国人

コックがイギリス人

政治家がイギリス人

政治家が日本人

エンジニアが日本人

エンジニアが中国人

銀行家がドイツ人

銀行家がイタリア人

恋人がイタリア人

恋人がドイツ人

他の国の人はともかく、日本人に対して外国の方からは「勤勉で器用だけれど優柔不断」というように見られているということでしょうか。

まあ、今の子供にそのまま当てはまるかという少し疑問もありますが。

もう一つ、このようなものもありました。

○沈没しかけた船に乗り合わせた様々な国の人たちに、海に飛び込むよう船長が説得をします

アメリカ人に 「飛び込めばあなたはヒーローになれます」

イギリス人に 「飛び込めばあなたはジェントルマン (紳士) になれます」

ドイツ人に 「飛び込むのがルールです」

イタリア人に 「飛び込めばあなたは女性にもてます」

日本人に 「みんな飛び込んでます」



これは、「日本人は集団に従うことを美德としている」と外国の方に思われているということでしょうか。確かに、そのような場面に出会うことがあります。ことわざ「出る杭は打たれる」もその一面を表しているように感じます。あるいは、KY (空気が読めない) という言葉が流行ったのも、全体が生み出す雰囲気 (空気) に従うのが正しいという風潮の表れのようにも思えます。

これが子供たちの世界の話になると少し深刻です。子供たちの中にも、全体の雰囲気に流されて、人と違うことを言ったり、行動したりする子を排除しようとする場合があります。いわゆる「いじめ」です。

子供たちは皆、正義感をもってきます。中でも「いじめはいけない」という認識は、どの子にもあるはずで。しかし一方、実際の生活の中で、自分たちとは違うことをする子がいます。その子の言動が、自分の許容範囲を超えたときに、その子を仲間はずれにしたり、無視をしたりといったことが始まるのです。「いじめはダメ」の一方で、「いじめられる子にも原因はある」という考えの子がいるのも残念ながら事実です。さらにこの問題を深刻にするのが、周囲の子の反応です。自分の考えをもたず、全体に流され、同じようにいじめに荷担する。または「僕 (私) は関係ないよ」と知らん振りをする。まさに全体の雰囲気に従う困った流れです。

私たち教員は、どのようなことがあっても「絶対にいじめは許されないこと」ということを子供たちには強く教えていかななくてはなりません。「いじめられる子に原因はない」のです。あくまでも「いじめる行為の方が間違っている」のです。もし人と違う言動をしている子がいたら、仲間はずれや無視をするのではなく、その違いをそっと優しく教えてあげればいだけ。相手との人間関係を崩したくない」とか「自分が標的になるのでは」といったことを考えるのではなく、そこは勇気をもって全体の「雰囲気」に抗って、相手のことを思って教えたり、「いじめはダメだ」と言えたりできるよう、正しい行動をしてほしいと願っています。

本校では、「いじめはどの子にも起こりうる」という認識で、積極的ないじめの認知と解消を図るよう取り組んでいます。もし、自分がいじめの対象となったとき「助けて」を言えるよう、もし言えないとしても「なかよしアンケート」などで訴えることができるよう、また、周囲のいじめを見たら「それは間違っているよ」「やめなよ」と言える勇気を持てるよう、さらには教員の側がもっとアンテナを高くして「いじめ」を察知できるように努めてまいります。誰もが「学校は楽しい」と思える学校づくりのために。

最後に、今年度の「ゆずりは」はこれが最終号です。1年間、お読みいただきありがとうございました。